

報告書抄録

| ふりがな | まぼりいせきだいにじゅうさん・にじゅうよんちてんはつつちょうさほうこくしよ | | | | | | | |
|--------------------------------|--|-------|---------|------------------|--------------------|------------------------------|-------------|--------------|
| 書名 | 馬堀遺跡第23・24地点発掘調査報告書 | | | | | | | |
| 副書名 | | | | | | | | |
| シリーズ名 | 朝霞市埋蔵文化財発掘調査報告書 | | | | | | | |
| シリーズ番号 | 第36集 | | | | | | | |
| 編著者名 | 野澤 均・照林敏郎・林 邦雄・小野麻人 | | | | | | | |
| 編集機関 | 朝霞市教育委員会(文化財課) | | | | | | | |
| 所在地 | 〒351-0007 埼玉県朝霞市岡2-7-22 | | | | TEL048-463-2927 | | | |
| 発行年月日 | 西暦2012年(平成24年)3月27日 | | | | | | | |
| ふりがな 所収遺跡名 | ふりがな 所在地 | コード | | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 (㎡) | 調査原因 |
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| まぼりいせき 馬堀遺跡 だいち 第23地点 | さいたまけん あさかし 埼玉県朝霞市 ねぎしだい ちようめ 根岸台五丁目 1282-1 いちぶ の一部 | 11027 | 008-063 | 35度 48分 3秒 | 139度 36分 20秒 | 2008年 7月22日 ～ 7月30日 | 100.23 | 土地区画 整理事業 |
| まぼりいせき 馬堀遺跡 だいち 第24地点 | さいたまけん あさかし 埼玉県朝霞市 ねぎしだい ちようめ 根岸台四丁目 1329-2・ いちぶ -3の一部 | 11027 | 008-063 | 35度 48分 9秒 | 139度 36分 21秒 | 2009年 5月14日 ～ 6月25日 | 778 | 土地区画 整理事業 |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---------------|---|--------|--|-------------------------------------|--|
| 馬堀遺跡 第23地点 | 集落跡 | 縄文時代 | なし | 縄文土器 | 早・中期土器。 単独で分布する平安時代の堅穴住居跡。住居内より多量の須恵器や土師器をはじめとして、土錐、刀子、釘が出土。 |
| | | 平安時代 | 堅穴住居跡1軒 | 須恵器 土師器 土製品 鉄製品 | |
| | | 中・近世以降 | なし | 磁器 陶器 土師質土器 素焼土器 銭貨 | 中・近世の陶磁器、土師質土器、素焼土器、近代の銭貨。 |
| 馬堀遺跡 第24地点 | 集落跡 | 旧石器時代 | 石器ブロック3箇所 礫群4箇所 | 石器 礫 | 立川ローム層IV層上部を中心とする石器ブロック3箇所と礫群4箇所が半円状に分布。石器ブロックを中心に、角錐状石器、U・F、R・F、石核、台石、剥片、あわせて42点出土。 |
| | | 縄文時代 | なし | 縄文土器 | |
| | | 平安時代 | なし | 須恵器 土師器 | 須恵器坏・甕・壺、土師器坏・甕。 |
| | | 中・近世 | 段切り状遺構1箇所 溝跡1条 井戸跡1基 土坑3基 小ピット多数 | 磁器 陶器 素焼土器 瓦器 鉄製品 銭貨 | 台地斜面上部に溝跡、中位に土坑群、下部に井戸跡を伴う段切り状遺構。出土遺物は近世例主体。 |
| 要 約 | <p>第23地点は、調査区中央部より平安時代のやや小形の堅穴住居跡1軒が検出された。調査範囲が限られるため、当該期の集落の規模や広がり、性格などは一切不明であるが、多量の須恵器や土師器をはじめとして、刀子4点、釘、土錐などの多様な遺物を伴っていたことが注意される。土師器の中には常総型甕が含まれる。その他、縄文早・中期土器、中・近世の陶磁器、土師質土器、素焼土器、近代の銭貨が出土しているが、量的にはいずれもわずかであり、これらの遺物に伴う遺構も検出されなかった。</p> <p>第24地点は、台地斜面中位を中心に旧石器時代の石器ブロック3箇所、礫群4箇所が検出された。全体の規模や形状は不明であるが、おおむね半円状の広がりをみせている。石器ブロックからは角錐状石器、U・F、R・F、石核、台石、剥片などが出土しており、石器ブロック以外からの出土例をあわせた石器の総数は42点にのぼる。石器ブロックと礫群は立川ローム層IV層上部を中心に広がっており、武蔵野Ⅱb期に比例される。次の縄文時代では早・前・中期土器、平安時代では須恵器や土師器が出土しているが、いずれも量的にはわずかであり、当該期の遺構は一切検出されていない。中・近世では、台地斜面上部より溝跡1条、中位より土坑3基、下部より井戸跡を伴う段切り状遺構1箇所が検出されているが、出土遺構は全体に少なく、それぞれの正確な時期は不明である。段切り状遺構は上下2面の構成を示し、井戸跡以外にも排水のためと思われる溝状の掘り込みや道路状の硬化面、性格不明の小ピット多数を伴っており、住居として利用された可能性が高い。</p> | | | | |